

令和3年度第1回川崎市農業振興計画推進委員会議事録（摘録）

1 開催日時 令和3年8月18日（水）15時00分～17時00分

2 開催場所 川崎市都市農業振興センター（高津区梶ヶ谷2-1-7）3階会議室

3 出席者

出席委員（13名 ※書面意見申出4名含む）

竹本委員、徳田委員、梶委員、越畑委員、新堀委員、岩井委員、堀委員、堀越委員、秋元委員、長谷川委員（書面）、土志田委員（書面）、大西委員（書面）、牧野委員（書面）

事務局（6名）

都市農業振興センター所長（齋藤）、
農業振興課長（伊東）、農地課長（久延）、農業技術支援センター所長（井上）、
農業振興課農政係長（田中）、農業振興課農政係（坂東）

4 議題（公開）

- (1) 開会・着任者等あいさつ
- (2) 川崎市農業振興計画の中間総括
- (3) 令和3年度 主な事業の進捗状況等
- (4) 令和4年度 委員改選について
- (5) 令和4年度 川崎市農業実態調査について
- (6) その他（事務連絡）

5 傍聴者

4名

6 会議の内容（摘録）

『1 開会・着任者等あいさつ』

(1) 開会（田中農業振興課農政係長）

令和3年度第1回川崎市農業振興計画推進委員会の開会を宣言

(2) 開会挨拶（齋藤都市農業振興センター所長）

(3) 配布資料確認、委員会目的及び会議公開の確認（田中農業振興課農政係長）

(4) 新規着任者、堀越委員の挨拶

(5) 傍聴者の遵守事項の説明（田中農業振興課農政係長）

『2 川崎市農業振興計画の中間総括』

【竹本会長】

議題にある「川崎市農業振興計画の中間総括」について事務局から説明願いたい。

【事務局：伊東課長】

資料2川崎市農業振興計画中間総括、資料3農業振興計画中間総括冊子ページ構成、資料4冊子イメージ、を基に説明。

【竹本会長】

補足説明として、農業振興計画の基本戦略等で、具体的取組の記載が無い部分があるのは、数値化できない目標もあるため。資料2の左側でどのような観点で評価するか、まとめている。過去の取組結果については後で資料をご確認いただきたい。

それでは、資料2の右側の今後の方向性について議論したい。特に戦略3の達成度が最も低くなっているの、何故目標達成出来ないのか考えたいと思う。資料2中間総括について、何か意見や質問があれば発言いただきたい。

【梶副会長】

中間総括資料2の戦略1の新品種・新技術普及実績について、新品種の「かわさきつや菜」ブランド化推進は理解できるが、原種である「のらぼう菜」も推進した方が良いと思う。「のらぼう菜」は市内で生産が増えているが、品質差があり栽培技術の浸透が不十分と感じる。ブランド化であれば選別が必要かもしれない。

この川崎市農業振興計画と関連して、JAとして地域農業振興計画を策定している。計画達成するためには、今後は行政と農協がもっと連携してワンストップで物事を進めることを考えていかなければならない。特定生産緑地では協定により連携できているが、市民農園、援農ボランティア等も、もっと全般的に連携が必要ではないか。

市と農協はもっと協力が必要。相談窓口を一本化しワンストップで、農家の相談を受け止める必要がある。

【越畑委員】

本日は農業者の参加者が少ないので、農業者視点の意見をしたい。まず、この会議について、黒川の農業振興地域では20代の農業者もいるので、将来のことを語るには若い人にこの会議に参加してもらいたいと思う。

【資料2】で「香辛子」を推進しているということだが、直売所セレスモスで「香辛子」の販売が見受けられない。消費者だけでなく、市内農家でも「香辛子」の認知が広がっていない。

本当に推進するならば、種を配らねばならない。以前の栽培法のアスパラは黒川で広まり、売れたが、市も農協ともっと一体で支援しなければ新しいものは広まらない。

農業ボランティアについては、現状では農業者としては不十分と感じる。ボランティアも熱心な方がいるし、ありがたいが、もっと市と農協で協力して推進してほしい。

6次化については、最初は一生懸命やっていたが、継続できていない。6次化は収入増になるが、手間が掛かるので農家だけでは難しく協力が必要。

ワイン特区の話は知らず驚いたが、禅師丸柿ワインもコロナでイベント中止のため醸造を止めている状況でどこまでできているだろうか。

計画全般として、都市農業がどうあるべきか考えると、少量多品目で、近場の消費者メイン販売先が良いと思う。セレスモス直売所ができて、市内野菜が売れているのはとても良い。新品種に限定せず、農業への様々な支援をしてもらいたい。

また、認定農業者への農地集約について、黒川でも年齢の問題等で農業をやめてしまう人も実際におり、農地が減っていくことが予見される。農業委員会と市、地元で対策を協議し、どうやって新たな営農者を発掘するか、考えていかなければならない。

【竹本会長】

生産者の立場からの意見をいただいたが、新堀委員のご意見もいただきたい。

【新堀委員】

女性農業者団体のあかね会としては、5年間で3名のメンバーが新たに入り、農業技術支援センターの加工実習室を使用することもある。しかし去年は新型コロナウイルス流行もあり活動ができない部分もあった。

【資料2】戦略1の目標3であかね会の活動実績を書いているが、青年協議会のことがファーマーズクラブのイベントだけしか書かれておらず、青年協議会の活動についての記載がない理由はなにか。

【伊東課長】

実は、あかね会と青年協議会は事業の組立てが違っており、あかね会は団体補助、青年協議会は、会自体への補助ではなく、ファーマーズクラブ事業委託という形になっているため、性質は似ているものの、市の資料としては【資料2】のような記載内容となっている。

【新堀委員】

農業者として「のらぼう菜」も実際に育てており、テレビ取材などで伝統野菜として紹介すると受けが良い。農技1号「かわさきつや菜」は、「のらぼう菜」との違いを示した方が

広まるのではないか。また、かわさき育ちの認知度については、武蔵小杉グランツリー野菜販売時や、小学生の畑見学受入時は、「菜果ちゃん」のシールを貼りアピールしている。

【竹本会長】

今後の方向性への意見は難しいかもしれないが、岩井委員のご意見をいただきたい。

【岩井委員】

この農業振興計画において、アクションプランと喫緊の課題・重点項目への取組が、関連付けできているのか気になった。計画は、様々あり同時並行かもしれないが、その上で、重点項目等、メリハリをつけられているのであれば問題は無いと思う。

経済界からの意見としては、生産農家の経営について、継続的な承継が出来るようにするためには、稼いでいけるか、商品として成立するか、ということを考えていく必要がある。

例えば給食のように生産量が多く必要というものと、少量生産で希少価値、高品質化に商品価値が生まれるものは違うし、地域限定で販売するのか全国展開で販売するののかも違いがある。そういった販売対象を考えることで、商品のプロモーション、販路開拓を考えられるのではないか。

【堀委員】

新しい野菜はそのままでなくて、使い方が大切になる。香辛子レシピコンテストをやっているが、せっかくブランドを立ち上げたので、皆でもっと協力して盛り上げていく必要がある。

以前名人が栽培指導した「のらぼう菜」を食べたら大変おいしかった。栽培法を教わればおいしくできるはずで、地元の伝統野菜を広める動きがもっと広まると良い。越畑委員の言う通り、近くで育ったものを食べられる今の環境は幸せな環境と思う。

「かわさきそだち」は、調べても定義が分かり辛い。川崎産は全てということで良いのか、ブランド化であれば方策を考えるべき。そして他の団体と一緒に連携していくことは大切で、援農ボランティアは、みんな頑張っているが、援農の更なる発展には、報酬が出る形態の方が、ボランティア側も頑張るし、農家さんも仕事を頼みやすいのではないか。報酬を市が補助することも検討したら良いのではないかと思う。

【秋元委員】

戦略3と4の達成度が低いのが、農地の多面的機能は、もっと市民に向けた広報が必要で、農業は食したり、農業体験してもらわないと、農業価値が伝わりづらい。

意見があった「のらぼう菜」ブランド化のための選別は必要と感じる。多面的機能は6つあったが、[資料2](#)で防災農地等が出てないので記載すべきではないか。多面的機能については記載が足りていないと思う。

また、**資料4**冊子イメージについて、掲載グラフは今後変更もすると思うが、計画目標と合致していない情報のグラフのように思える。グラフで300万円以下の収入の農家多いが、農家がどのように売り上げ増やすのか、今後の戦略に必要ではないか。鎌倉野菜の例や、他の自治体の「みどり税」導入など、市民と農地がつながることが必要ではないか。

また、**資料4**のQRコードは、携帯を出して見るのは煩わしく感じるので、それよりは冊子でわかりやすく書くことが必要ではないかと思う。

【堀越委員】

各委員の力添えで川崎の計画は他の市町村より良くとつくられていると思います。

越畑委員から、認定農業者に農地集約を行うとしても農地減少の心配はまだあるという意見があった。農業に関わる様々な機関が、統一された将来ビジョンを持ち、それに沿った具体的な方策が必要だと思う。個別ではなく、市がリーダーシップ取って、農家からも聞き取りをして、全体で何を指すのか、はっきりしていると良いのではないか。

県も、具体的な計画にできていない部分があるので、県の計画の参考になるような計画を策定していただきたい。

【徳田委員】

計画記載内容は全てが大切なので、重点的な目標を決めるのは難しいが、みんなが共有できる目標をつくり、提示できると上手くいくのではないか。

私達が目指すべきところはなにか。国の政策転換で「農地はあるべきもの」となったが、越畑委員の意見の通り農地も減って高齢化も進んでいる。農地の維持に皆で努力しているが、どこまで実現できるだろうか。全体として、担い手確保、世代交代、農地確保、そしてブランド化、販路開拓等々、いずれもがつながっている課題である。計画策定後の追加取組で有効に使えるツールは揃ってきている。使えるものは有効に生かす必要があると思う。

この目標実現には戦略3は決定的に大事だと思う。2年前、大学で川崎の農業の調査を行ったが、取組に生産者もJAも尽力し、市内の流通面、生産販売の流れの方向性はできているが、もう一步、ワンストップで生産から販売をしっかりとむすびつけていく施策が必要である。戦略3のブランド化について、もっと推進するべきで、JAと市、流通業者、一体感をもって作り上げるのが大事ではないか。都市農業活性化フォーラムでも市内流通業者も参加しており、ブランド化に何が必要か、協力をお願いできると良い。戦略4については対市民への広報を進め、市民農園などの取組を推進していくことが重要である。

【竹本会長】

中間総括について委員の皆さんの意見を整理すると、1つは、農業振興計画前半が終わり、これまでの5年間の実績の中間総括として**資料2**において自己点検で進捗整理された。

次に、今後の方向性については、複数の問題提起があった。

堀委員のJAと市の一体化の意見があったが、例えば長野県飯田市や神奈川県秦野市では、JAと市で事務部署共有している例がある。川崎でも同じことをするべきか、問題提起された。

ビジネスの視点ではメリハリが大事というご指摘があったが、次の5年間の方向性を出すには、これは次回の会議で再度議論すべきと思う。

生産者視点では、若手、女性活躍の意見があり、これもメリハリをつけることにつながると考えられる。

ブランド化は重層的なもので難しく、生産者個人として、地域として、市として、どこで販売するか方向性をはっきりしないと難しい。堀委員の言う通りブランドは概念をはっきりしないと広まらない。新しい作物、伝統野菜の生産はどう整理するか。

そして秋元委員の指摘であった多面的機能を全部記載網羅できていないという部分では、消費者目線も必要と気づかされた。

また、中間総括の冊子は誰に向けて出すかという問題がある。市民向けとすれば、農地はあるべきものに何故変更されたのか訴えるべきかもしれない。これについても次回議論が必要であると思う。詳細な情報のQRコードでのHP閲覧誘導は、計画にメリハリをつけられるという点で有効と思う。中間総括は次回にも議論を持ち越したい。

『3 令和3年度 主な事業の進捗状況等』

【竹本会長】

議題にある「令和3年度 主な事業の進捗状況等」について事務局から報告願いたい。

【事務局：伊東課長】

農商工等連携推進事業における進捗状況、農業経営高度化支援事業進捗状況について、

資料5を基に説明。

【事務局：井上所長】

農技1号の進捗状況について、資料5を基に説明。

【事務局：久延課長】

特定生産緑地の進捗状況について、資料5を基に説明。

『4 令和4年度 委員改選について』

【竹本会長】

議題にある「令和4年度委員改選」について事務局から説明願いたい。

【事務局：伊東課長】

令和4年度 委員改選について、資料6を基に説明。

【竹本会長】

市民委員公募の小論文タイトルは、特に委員から意見が無ければ案の中から事務局に任せることとする。

『5 令和4年度 川崎市農業実態調査について』

【竹本会長】

議題にある「令和4年度 川崎市農業実態調査」について事務局から説明願いたい。

【事務局：伊東課長】

令和4年度 川崎市農業実態調査について、**資料7**を基に説明。

【竹本会長】

順番が前後したが、今日の各議題について、書面で事前に委員から頂いた意見を事務局から説明願いたい。

【事務局：田中係長】

事務局より事前に提出があった意見申出書について説明。(主な意見抜粋)

(大西委員：意見申出書)

中間総括については、「かわさきそだち」ブランドはHPでも情報があまり出ていない印象を受け、HPやSNSで情報発信をもっと行ったほうが良い。冊子タイトルについては、「かわさき農業これまでこれから」が手に取りやすくて良い。中間総括冊子イメージについては、QRコードでHPと連携して便利にできると良い。市民委員公募の小論文題目については、事務局案のうち、「企業、大学、NPOなど多様な主体と歩む農業のあり方」では限定的内容になってしまうのではないか。

(牧野委員：意見申出書)

中間総括について、「かわさきそだち」はJAと市で連携を深めて消費者向けの広報を進めていくのが良い。市民委員公募の小論文題目については、「企業、大学、NPOなど多様な主体と歩む農業のあり方」が良いのではないか。

【竹本会長】

資料2中間総括について、時間が足りなかったため、本日出席者においても追加意見がある場合、事務局でまとめることとする。追加意見が出た場合は次回反映できれば良いと思う。

冊子については、事務局と誰に向けた冊子として作成するか等含めてもう一度検討し、次回会議で提案することとする。

援農ボランティアについては、前回の会議でも意見が出ているので、位置づけを確認した方が良く感じた。議題以外で事務局から伝達事項があれば説明願いたい。

『6 その他（事務連絡）』

【事務局：田中係長】

お手元資料に意見書を用意しているので、中間総括を含め、追加で意見があれば9月10

日までに事務局へ送付いただきたい。また、次回会議については、10月後半～11月上旬で検討しており、決定後に連絡させていただく。

【竹本会長】

資料2 中間総括について、委員会として確認したと整理してから冊子作製に入りたい。今日はまだ議論が十分でないため、次回会議で中間総括について了解を得ることとしたい。

以上